

## 平成30年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（平成31年3月）

報告者氏名・所属	奥田知靖・岩見沢校
研究プロジェクトの名称	多様なスポーツへの発展可能性をもつ種目横断的基礎的運動能力を育成するスポーツ指導者養成プログラム
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●奥田知靖 岩見沢校・准教授</li> <li>森田憲輝 岩見沢校・教授</li> <li>安部久貴 岩見沢校・准教授</li> <li>大山祐太 岩見沢校・准教授</li> <li>山本理人 岩見沢校・教授</li> <li>志手典之 岩見沢校・教授</li> <li>佐藤 徹 岩見沢校・教授</li> </ul>
研究プロジェクトの概要等（研究期間全体）	
<p>近年、子どもの体力・運動能力の低下は社会問題の一つになっている。この要因として、運動経験の不足が指摘されており（杉原ほか，2014），幼少期からの運動・スポーツ習慣の形成は重要な課題となっている。さらに，ボールゲーム現場では，基本的な体力や運動能力を身につけていない子どもが，専門種目の複雑な技術の詰込み練習に取り組むことや，指導者からの過度なフィードバックによって，競技からの早期のドロップアウトの原因になったり，期待されるような才能を開花させたりすることができない可能性が指摘されている（Kröger&amp;Roth，1999）。このような背景から，近年では，子どもの発達段階を考慮した指導内容や楽しみながら学習することの重要性が指摘され，様々な講習会が実施されている。しかし，現在でもボールゲーム種目に関する問題が見受けられるため，既存のスポーツ指導者育成プログラムの限界があると考えられる。具体的には，幼少期のスポーツ指導理論に関するカリキュラムが内容的に不十分な可能性や，たとえ十分であったとしても講義と実技で構成された一般的な指導者講習会の方法では，実践的な指導能力の獲得は不十分である可能性がある。また，子どもの外遊びの減少など運動・スポーツ離れも依然として社会問題になっていることから，スポーツ指導者だけでなく保護者を中心とした社会全体で幼少期のスポーツの理解を進める必要があると考えられる。</p> <p>したがって，本プロジェクトでは，上記の問題点の解決に向けて，まず幼少期のスポーツの専門的知識と実践的能力を身に付けた指導者を育成するプログラムの開発を目指し，次に，そのプログラムを幼少期のスポーツ指導理論・実践方法論における保護者の理解を進めるプログラムにまで発展させることを目的とする。</p> <p>この目的を達成するために，3年間の計画で以下の3つの課題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) スポーツ科学理論に裏付けられた幼少期のスポーツ指導に関する理論およびその実践的な指導方法論の体系化，および保護者のスポーツへの認識の調査を実施し，指導者講習会向けの冊子を作成する。これに加えて，家庭等での運動・スポーツ支援に役立つ手軽に読めるリーフレットを作成する。</li> <li>2) 幼少期の運動に関する正しい知識と実践力を身につけた指導者を養成するプログラムを開発する。これには，一般的な指導者講習会で実施される講義と実技での構成のみならず，実際の子どもを対象とした複数回の指導実践と，その際の指導能力の評価およびフィードバックが可能なシステムを開発する。</li> <li>3) スポーツ指導者だけでなく，社会全体に対して幼少期のスポーツ指導理論の理解を促進させるために，家庭での外遊び等の運動・スポーツ支援する簡単なプログラムを開発し，実践する。</li> </ol>	
研究実績の概要（当該年度）	

平成30年度の課題は、以下の5点であった。

- ①岩見沢市や地域のスポーツクラブと協力し指導者養成プログラムの実施と検証を行う。
- ②幼少期の運動発達およびその運動指導方法をまとめたリーフレットを作成し、地域のスポーツクラブ、小学校、幼稚園に配布する。
- ③プロスポーツチームとの連携を図り、本プロジェクトの趣旨を幅広く普及する。
- ④社会全体に対して幼少期のスポーツ指導理論の理解を促進させるために、家庭での運動遊び等の簡単なプログラムについて開発する。
- ⑤本プロジェクトの情報についてホームページを作成し公開する。

これらに関する実績の概要は以下のとおりである。

#### ①指導者養成プログラムの実施と検証

・平成30年8月6日に岩見沢市教育研究所と連携し、指導者研修会「ボールゲーム指導のスキルアップ」を実施した(研修要綱：別添1)。19名の参加者(岩見沢市の小・中学校の教員)があった。

・平成30年8月8日に総合型地域スポーツクラブSports Life Design Iwamizawaと連携し、指導者研修会を実施した。8名の参加者(北海道教育大学岩見沢校学生)が参加した。

これらの研修会にてアンケートを実施した結果、小学校の教員においては、主に技能レベル差に応じたルール変更の方法や子どもが楽しいと感じる工夫の方法については体育授業の活用できるといった意見が多く得られた。また、1時間の授業の中での組み立てについて疑問が残るとの意見も得られた。スポーツクラブ関係者においては、指導理論および実技については概ね有意義であったとの回答が得られた。受講者全体から得られた共通の意見として、指導理論は理解しているが子どもへのゲームの説明や個々の子どもに応じた指導が難しかったということであった。講義と実技のみの実施で指導実践を行わない講習会では、このような意見は得られず、「楽しかった」・「有意義であった」などのような感想が多くみられることから、指導者養成講習会において実際に子どもに指導する指導実践は不可欠な要素であり講義・実技・指導実践の組み合わせが必要であると考えられる。しかし、これまでのアンケート調査の結果から、1回の指導実践のみでは子どもに指導する難しさを感じることで終わってしまうと考えられるため、前年度に試験的に実施した講習会のように指導実践を複数回実施し、明確な評価観点を基にしたディスカッションを取り入れた指導者養成カリキュラムが必要であると考えられる。これらの知見を基に、子どものためのボールゲーム指導プログラム「CAPS-Childプログラム」を開発した。

#### ②リーフレットの作成および配布

リーフレットのタイトルは、子どものためのボールゲーム指導プログラム～多様な種目への発展する基礎的運動スキルの育成～であり、略称をCAPS-Childプログラムとした。これまでに3500部印刷し、札幌市の小学校へ10部ずつ合計約2000部、岩見沢市の小学校および中学校の全教員に1部ずつ合計約500部配布した。その他スポーツクラブ関係者および岩見沢市の幼稚園関係者へ合計約600部配布、残り400部は少年団およびプロスポーツチームに配布予定である。

#### ③プロスポーツチームとの連携およびプロジェクト内容の普及

・プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズと連携し、試合終了後の札幌ドームで子どもの運動能力評価のイベントを実施した。実施日は平成30年4月21日、5月3日、6月17日、8月25日であった。

・プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズのベースボールアカデミーの子どもたちの運動能力測定およびフィードバックを実施した。これまで平成30年7月～9月に小学校1年～6年生の子ども134名、中学生51名のデータを測定し、結果をフィードバックした。

・プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズのSCグループと連携し、小学校の運動会におけ

る運動プログラムに関する検討を行っている（現在継続中）。

・プロバスケットボールチームトヨタアルバルク東京と本プロジェクトで開発したプログラムの普及について検討している（現在継続中）。

日本ハムファイターズとトヨタアルバルク東京のアカデミッククラスとは次年度から共同研究を実施する予定である（申請書提出済み）。

#### ④家庭での運動遊び等の簡単なプログラムの開発

2017年度に完成した運動プログラムを修正および追加し、家庭でもできる運動プログラムを精選した。報告書などにまとめることはできていないが、総合型スポーツクラブSports Life Design Iwamizawaの会員の保護者説明会（平成31年度は4回開催：4月16日，5月18日，5月30日，1月22日）においてCAPS-Childプログラムを説明，また運動プログラムについても説明した。

#### ⑤本プロジェクトのホームページについて

ホームページを作成した（<http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=okuda>）。今後内容を追加し継続して運営していく予定である。

### 今後の研究プロジェクトの推進計画

今年度で3年間の計画がすべて終了したが，以下の3点について課題が残っている。これらの加地あにに取り組むことが今後の研究プロジェクトを発展させることにつながる。

1) スポーツ科学理論に裏付けられた幼少期のスポーツ指導に関する理論および実践的な指導方法について体系化し，講習会のカリキュラムを作成した。しかし，これまで試験的に講習会を実施したことにとどまっており，定期的な運営には至っていない。今後，CAPS-Childプログラムの講習会を定期的実施し，資格を認定していくことが必要である。

2) 主にスポーツクラブの指導者および保護者を対象として講習会カリキュラムの作成やリーフレットの作成を行ってきたが，実際には小・中学校の教員のニーズが高く，今後は教員向けの講習会を計画する必要がある。

3) 家庭での運動遊び等の簡単なプログラムについて報告書等にまとめることができていない。

### 教育現場や地域での活用等

作成したリーフレットは，子どもの運動指導の理解において，幼稚園・学校・スポーツクラブにて有益な情報をもたらすものであると考えている。また，開発した運動プログラムおよび指導者養成カリキュラムは，学校体育・競技・レクリエーション等多くの場面で活用できる。

### 研究成果の公表実績（当該年度）

#### 【著書】

#### 【学術論文】（投稿中も含む）

#### 【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

##### 【学会発表】

・Growth Trends in Agility Evaluated by a Novel Agility Test, N-Challenge, in Japanese Elementary School Children. The 23st European College of Sport Science. 2018/7/6. Dublin. Tomoyasu Okuda, Noriteru Morita, Noriyuki Shide, Yuta Oyama, Hisataka Ambe, Rihito Yamamoto, Toru Sato.

・男子中学生サッカー選手が認知する指導者の「言葉がけ」に影響を与える要因の検討。日本運動・スポーツ科学学会第25回大会。広島大学。安部久貴

・小学生のボールゲームの戦術能力における創造性と認知機能の関係。日本発育発達学会第17回大会。2019/3/9～10。大妻女子大学。奥田知靖，安部久貴，石原暢，紙上敬太，中島寿宏，山本理人，森田憲輝。

##### 【CAPS-Childプログラム研修会の開催】

・指導者研修会「ボールゲーム指導のスキルアップ」。平成30年8月6日。岩見沢市教育研究所。19名参加。岩見沢市教育研究所共催。

<p>・スポーツ指導者研修会の開催。北海道教育大学岩見沢校。平成30年8月8日。8名参加。総合型スポーツクラブSports Life Design Iwamizawa共催。</p> <p>【CAPS-Childプログラム保護者説明会の開催】</p> <p>スポーツクラブSports Life Design Iwamizawaの会員の保護者説明会においてCAPS-Childプログラムを説明（平成31年度は4回開催;4月16日，5月18日，5月30日，1月22日）。</p>	
<p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p> <p>【リーフレット作成】</p> <p>リーフレットのタイトルは「子どものためのボールゲーム指導プログラム～多様な種目への発展する基礎的運動スキルの育成～（CAPS-Childプログラム）」であり，3500部印刷した。札幌市の小学校へ約2000部，岩見沢市の小学校へ約500部配布済みである。その他スポーツクラブ関係者および岩見沢市の幼稚園関係者へ約600部配布済みであり，残り400部は少年団およびプロスポーツチームに配布予定である。</p>	
<p>【研修会資料におけるCAPS-Childプログラムの資料提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年5月13日，指導者養成講習会（帯広市文化スポーツ振興財団と連携）。10名，帯広市総合体育館</li> <li>・平成30年4月28日～29日，バルシューレ指導者養成講習会，27名，函館市</li> <li>・平成30年9月29日～30日，バルシューレ指導者養成講習会，7名，北海道教育大学岩見沢校</li> <li>・平成30年10月26日，プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズのSCグループ「小学校の運動会における運動プログラムの検討会」，14名，札幌市</li> <li>・平成31年1月12日～13日，バルシューレ指導者養成講習会，5名，北海道教育大学岩見沢校</li> <li>・平成31年2月16日～17日，バルシューレ指導者養成講習会，8名，北海道教育大学岩見沢校</li> </ul>	
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAPS-Childリーフレット</li> <li>・CAPS-Childカリキュラム</li> <li>・CAPS-Child資料</li> <li>・FBAレポート（小学校）</li> <li>・FBAレポート（中学校）</li> <li>・FBA返却シート（小学校）</li> <li>・講習会アンケート</li> <li>・指導者評価表</li> </ul>
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	<p>プロジェクトHP（3/27公開）  <a href="http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=okuda">http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=okuda</a>  NチャレンジURL（ファイターズ）  <a href="https://www.fighters.co.jp/news/detail/00000961.html">https://www.fighters.co.jp/news/detail/00000961.html</a>  NHK ニュース  <a href="https://www3.nhk.or.jp/lnews/sapporo/20190320/7000008832.html">https://www3.nhk.or.jp/lnews/sapporo/20190320/7000008832.html</a>  <a href="https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20190320/0008845.html">https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20190320/0008845.html</a></p>
問い合わせ先	<p>氏 名：奥田知靖  電 話：0126-32-0342  E-mail：okuda.tomoyasu@i.hokkyodai.ac.jp</p>